



平成14年6月21日から平成14年11月4日まで、北海道におけるドライブ観光支援の地域ITS(高度道路交通システム)実験として、「ニセコ・羊蹄・洞爺e街道」が実施されました。この実験は、ニセコ・羊蹄・洞爺地域の15市町村を訪れる旅行者を対象に、インターネットで携帯電話に道路・気象情報などを提供して道路の安全性・利便性向上を図るとともに、観光情報などを提供して地域の活性化を図ろうとするものです。

いい街、いい道、いい情報！

“いい街”が広域に点在する北海道で、街と街を結ぶしっかり管理された“いい道”は地域の自立に欠かせない存在です。さらに地域が広域に連携して生き生きとした“いい情報”を発信することで、魅力が高まり、人々を引き寄せることができます。e街道のキャッチフレーズ、“いい街、いい道、いい情報！”はそんな想いをもとに作られました。

「ニセコ・羊蹄・洞爺e街道」は、ドライブ観光支援の地域ITS実験として、地域のリアルタイムな観光情報や気象情報を、道路情報とともに利用者の位置や時間に応じてきめ細かく提供するものです。しかもそれを大がかりなシステム構築を行うことなくインターネットを使ってフレキシブルに実現する、そんなニーズがこの実験の出発点となりました。



ニセコ・羊蹄・洞爺e街道のポスターと携帯電話

e街道実験の概要

この実験では、移動中の旅行者の携帯電話に、利用者のニーズに合った情報がEメールやホームページで提供されました。エリア内の道路の通行止め情報をはじめ、地域の詳細な天気予報やカントリーメッセージと呼ばれる各市町村からのお知らせの更新状況などが伝えられました。また、利用者はホームページで地域の観光情報が検索でき、この情報の中にはきめ細かなイベント情報なども含まれました。

この他、エリア内には29のチェックポイントが設置され、これを回ってクイズに答える“モバイルラリー”に参加することで、地元の特産品などが抽選でプレゼントされる企画が設けられたり、利用者がおすすめ情報を投稿する機能も付け、モニター同士の情報交換も可能になりました。



携帯電話の画面



実験参加の流れ

e街道実験の実施状況

今年度の実験は、昨年度の予備実験に引き続いて実施されたものですが、洞爺湖周辺エリアが新たに加わって実験エリアが15市町村という広域に拡大したこと、また実験期間も4ヶ月半と大幅に延長されたことが特徴でした。

4ヶ月半の実験期間内のモニター参加登録数は2,000名で、昨年度の461名を大幅に上回りました。また、ウェブへのアクセス数は約37,200回、ページビュー総数も約157,200頁（携帯版PC版合計）に上り、モニターが旅先で出会ったいいことや感動したことを投稿できる“おすすめ情報”の数は358件に上りました。さらに、携帯電話を使ったクイズラリー「モバイルラリー」の各賞エントリー総数も598名に上るなど、実験への反響の大きさが伺える結果となりました。

7月30日から8月11日にはニセコ町の道の駅「ニセコビュープラザ」と虻田町の「火山科学館」で実験ショーケースを開催し、現地を訪れた旅行者の他、行政機関や大学関係者の方々に広く実験が紹介されました。また、テレビ番組でも本実験が取り上げられ、北海道テレビ放送（HTB）の「南平岸・未来道」という番組で8月10日深夜にe街道特集が20分間にわたり放送されました。

ニセコ・羊蹄・洞爺e街道実験協議会

この実験は、地域部会と研究部会から成る「ニセコ・羊蹄・洞爺e街道実験協議会」により実施されたものです。地域部会には、北海道開発局や北海道の地域出先機関や地元の15市町村などが、

また研究部会には、北海道開発土木研究所が公募した共同研究の相手機関11グループが参加しており、当センターも実験に参加しました。さらに、北海道地区「道の駅」連絡会をはじめ、地域の多くの関係団体に協力をいただきました。

（資料提供：北海道開発土木研究所防災雪氷研究室）



e街道実験ホームページ（10月4日時点）
<http://www.e-kaido.jp/>



実験風景～情報検索をする参加者



実験風景～モバイルラリーのクイズに回答する参加者



達坂ニセコ町長と室蘭工大田村先生を囲んでの懇談



「南平岸・未来道」のe街道特集（8月10日深夜放送）